

「チーム学校における協働を促進する ～教育相談コーディネーターの役割から～」

日本学校教育相談学会第24回夏季ワークショップ

2023年8月5日

和歌山県立医科大学
小児成育医療支援室・主事
公認心理師・学校心理士SV
藤田絵理子

本研修の目的

「生徒指導提要改訂版」に基づいた

- 児童・生徒の**理解の方法**や**指導・支援**
- チーム学校内における**よりよい関係性の構築を再検討**
- **自己資源・強みを再認識する**

校内チーム内の立場、特有の役割



本日お伝えしたいこと

- 生徒指導提要改訂のトピック
- 教育相談体制・関係機関との連携
- 地域連携支援による「命を守る取組」の展望
- チーム学校内での教育相談コーディネーターの役割

はじめに.

学校現場と時代背景

学校におけるコロナ禍の影響

- 目に見えないウイルス → 不安・恐怖
- 社会全体の問題 → 逃げ場の無さ (大人も子どもも)
- 長期休校 → 初めての措置—学びの多様化
不登校児童生徒—罪悪感の解消
- 長期化 → 先が見えない
- マスク生活 → 息苦しさ、表情不明な関係性

大人社会の縮図としての 子どもたちの問題

- 家族の密集化 (ロックダウン・休校)
 - 経済苦境、格差社会 子どもへの八つ当たり
 - 家族の不和 面前DV、虐待
 - 心理的な抑圧 孤独、家出、自傷行為
- ➡ 生物・心理・社会モデルからの考察

多様な家族背景要因へのアプローチの重要性

家族背景の多様さ

学校での指導・支援

教育 < **福祉・医療面**の支え

貧困・ヤングケアラー・シングル家庭など

地域連携—多職種による指導支援の有効性・必要性

開かれた学校→ 学校が抱え込まない

より**幸せ**に生きることの支援

生きる ↔ 生きる・学ぶ困難さへの支援
日常生活・ライフイベントへの支援

子どもたちの課題 = 地域の課題の縮図
地域包括的に多職種の専門機関が
課題解決のために連携・地域循環型若者支援
→ 学校を中心とした豊かな包摂社会の創生

1.
生徒指導提要改訂のトピック

生徒指導提要改訂版（2022.12月公刊）の特徴

- 12年ぶりの改訂
（1年2か月、9回協議＋WG会議、委員25人）
- 子ども主体、**子どもの権利**の明確化
- 学校に関連する**法知識**（リーガルナレッジ）の重要性、アップデート
- デジタルテキスト化（利便性、検索の容易さ）
- 地域連携**により子どもを支える重要性

子ども（身体、こころ）への理解 子どもを取り巻く環境への理解の強化

- 多様な背景を持つ子どもを理解する
- BPS（生物・心理・社会）モデル
を通じたアセスメント
- 発達支持的生徒指導

多角的なこども理解・指導・支援

13章

発達障害、精神疾患、健康面の最新知識

社会的養護下で育つ子ども達

ヤングケアラー、貧困問題

外国籍の子どもたち

ジェンダー違和を抱える子どもたち(12章)

こども（身体、こころ）への理解
こどもを取り巻く環境への理解

- BPS（生物・心理・社会）モデル
を通じたアセスメント

ケース会議などでの分析の視点として活用

こども（身体、こころ）への理解 こどもを取り巻く環境への理解

- BPS（生物・心理・社会）モデル
を通じたアセスメント

模擬ケース会議

不登校の背景の分析にBPSモデルを用いる

子どもを多角的に支援する視点



多様な子どもも理解 →BPSで分析 支える視点の明確化

●発達支持的生徒指導

- ・ 児童生徒の**個性の発見とよさや可能性の伸長**と**社会的資質・能力の発達を支える日々の関わり**
- ・ 不登校：
児童生徒にとって学校が**安心安全な居場所**となるため
「魅力ある学校づくり」
「わかりやすい授業」のための**工夫**

多様な子どもも理解→BPSで分析 支える視点の明確化

●発達支持的生徒指導

個性の発見、よさ、可能性を支持する**日ごろからの関わり**
安心安全な居場所

伸びゆく子どもへのリスペクト

力を信じて支える（発達支持的）

伸び行く子どもを支える人との協働、教員、SC、SSW

発達支持的関係の促進・循環

子どもへのリスペクト	言語＋非言語
人間関係の信頼感の増加	こどもから保護者へ
信じて支える（発達支持的）	共に支え合う関係
校内協働の強化、循環	安心できる空間創出

発達支持的関係に基づく児童生徒支援

複数教員による背景情報の収集	⇔事実集め
分析	⇔思い込み、決めつけず
共通理解	⇔独りよがりにならず
具体的な支援	⇔今、何をするか？
役割分担	⇔誰が、何をするか？ しないか？

発達支持的関係に基づく児童生徒支援

- 理解無くして指導・支援無し
- 多様な背景に対する知識・肌感覚をアップデート
ヤングケアラーの実態、外国籍のこどもの実生活、
貧困、DV家庭のしんどさの理解、福祉施設、子ども食堂の見学
- BPSモデルを活用した分析の試行
- こどもの良さを支持する指導・支援を試みる

年齢・発達特性に応じた指導支援 障害・病気などへの理解の促進

- 児童生徒の年齢・発達特性に応じた指導支援の模索
ユニバーサルデザインを活用した授業づくり
主体的に学べる環境整備の工夫
- 校内の多職種活用によるケース会議の開催
PDCAサイクルの促進⇔授業デザインの改善・共有・協働

2. 学校を中心とした 地域における多職種連携の重要性

校内・地域ネットワークで子どもを守る

学校を中心とした
地域における多職種連携

子どもを守る
校内・校外ネットワーク（連携）強化

多職種専門家の複合的な視点

セーフティネット機能の強化

子どもたち主体、幸せの強化
子どもの権利を守る
安心・安全を増進する手助け

子どもを理解し守る視点の強化

学校を中心とした校内・地域における多職種連携

「チーム学校」 対等な関係性 「連携智」の交換、蓄積
教員、養護教諭、栄養教諭、教育相談コーディネーター
SC、SSW（ソーシャルワーカー）、多職種専門家

教育相談コーディネーターとして

子どもを守る各分野の地域の専門家について

- 情報を集める
- 顔の見える対等な関係性を築く、同僚性の強化
- 知恵と協力を集約する ⇔ 校内伝達
- クリエイティブな予防教育の模索

教育相談コーディネーターの関わり



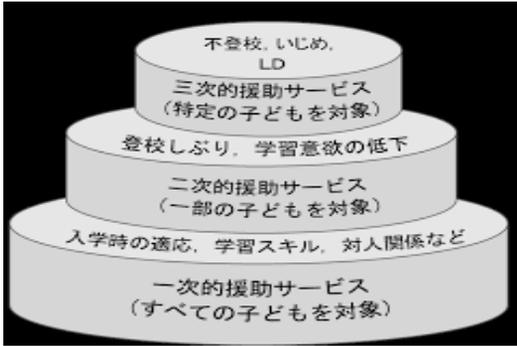
「連携智」の校内**伝達**
教員のスキルアップ



子どもたちへの**還元**

「教育相談コーディネーターとチームづくり」
神奈川県立総合教育センターR3

心理予防教育の実践



発達を支える
心理予防教育
課題を解決するスキル獲得

「教育相談コーディネーターとチームづくり」
神奈川県立総合教育センターR3

3.小・中学校における予防教育
SOS発信プロジェクトの実践

子どもたちの生きづらさの増大

- 本音で関わることができない子どもたち
- 人間不信（大人、親、友人）
- 寂しさ
- 孤独
- 経済的な問題

教育委員会HP調査より（2020 → 2023）

各都道府県におけるSOS教育の取り組み状況

①各都道府県や教育委員会ホームページ上でのSOS教育に関する情報提供

	2020	2023
なし	34	32
あり	13	15

②情報提供があった13件の内容

	2020	2023
独自で開発されたプログラムや教材の紹介	11	11
他で開発されたプログラムや教材の紹介	2	4

教材 8件（授業案、ワークシート、PP、動画）
 児童・教職員向け配布資料 2件
 実践報告書 1件

文部科学省
 東京都教育委員会
 北海道教育委員会

学校における自殺予防プログラム 「自殺」という言葉を用いた実施率

1.8 パーセント以下

2017年

文部科学省・厚生労働省

生徒指導提要改訂版（2022）

SOSの出し方に関する教育の重要性について明記（8章）

SOSを出せない中学生2年生の実態

- SOS発信プロジェクトワークショップ（3回）125名（事前）
苦しい気持ちの時、一人で我慢してしまう方ですか？
「はい」 **50.9%**
- A高校2年255名を対象としたアンケート
苦しいときどうしている？
「そのままがんばる」「一人で耐える」 **57%**

SOS発信プロジェクト全3回の特徴

- ① **ロールモデル（当事者高校生）** から、sosの出し方を学ぶ
- ② **精神科医（心の専門家）** から、ビデオレターで
中学生に必要な「メンタルヘルス知識」、
「sosを出す必要性」を学ぶ
- ③ **他者（同級生との意見交換）との関係性の中で、心理士と**
一緒に「メンタルヘルス」、「sosを出す方法」を考える
経験者の話—正確な知識—自分ごととしての学び

SOS発信教育の成果

sos発信プロジェクトワークショップ（全3回）125名

アフター

今後、自分が危機をむかえた時にsosを発信できそうですか？

出せる 86% やや難しい 14%

sos教育は必要だと感じた **97.8パーセント**

- 人に悩みを話すことを強要せず、あくまで聞く体制であったので、意外で安心した。
- すごく面白かったので次学年に引き継いでいきたい」
など**自分事**と捉え、肯定的な感想が多い

SOSを発信する力を身に着ける

- 自分の気持ちへの気づき
- 自分の気持ちを言葉で表現してもよい
- 他者の気持ちへの気づき・理解



ひとりぼっちではない

SOSを発信する力

- 自己的人権を守るスキル
- 他者の権利に気づき、守る力の向上

子どもへのメンタルヘルス教育

自分と他者の人権を守る力の獲得

メンタルヘルスの話題を身近なものに

SOS発信プロジェクト後、

- 自分の気持ち、心に関する言語（身体）表現が激増
- 親とのコミュニケーションの活発化
- ストレス対処法、しんどさの可視化スキルの獲得
- 「精神的に楽になった」と表現する生徒が増加
- 友人のしんどさへの共感的かかわりの増加

小学生プログラムアンケートより

小学校高学年では、「自分で悩みを抱え込んでしまう」など悩みを話すことが恥ずかしいと感じる児童が3割程いた。

事後アンケートでは、

「自分や友達に関心や興味が広がった」

「イヤなことがあればすぐにお母さんに相談したい」

など、学びの実用性に対する評価の回答も多い

プログラム実施後の感想（1か月後）

- 友達を作る技をやってみた
- 意外とうまくいった
- 仲良くできて楽しい
- 学校が嫌いだけど好きになってきた



学齢期にSOS発信教育を学ぶ意味

ワークショップ実施の結果、
児童生徒が心の苦しみを一人で抱え込まないために、
学校現場で、発達段階の早期から、心理予防教育を実施していく
有効性が認められた

特に小学校高学年の前思春期段階から、
クラスという、つながりの中で**自分らしさを発見し**、
信頼できる人を身近で見つけ、悩みを持つことや相談することは
決して恥ずかしいことではないとの知識を伝えておくことが重要

4. チーム学校内における 教育相談コーディネーターの役割

同僚性・コミュニケーションの促進

「チーム学校」として良好な関係性の構築

教員の人権・メンタルヘルスが大切

→血液（コミュニケーション）の通った健康な学校
心臓となる管理職やコーディネーターに**情報集約・伝達の手助け**

児童生徒理解における専門性の向上

年齢・発達に応じた指導支援、障害・病気などへの理解の促進

- 児童生徒の共通理解・支援の柔軟さを促進
- 情報収集・見立てを複数の目で行う体制整備
担任が一人で抱え込まない組織づくり
若い教員が声を発しやすい雰囲気づくり
- 校内の多職種活用によるケース会議の開催
PDCAサイクルの促進、支援の固着化を防ぐ

子どもを多角的に支援する視点



不登校支援 親子の人権を守る視点

本人・保護者・親子セットでアセスメント・支援

本人 + 周囲（学校生活・親子）との関係性

背景情報の収集・分析

支援開始タイミングを見逃さない

複合的な支援

適応指導教室活用、医療連携



安心安全な距離感を意識する

- 距離感を意識する
- 安心安全を尊重
- 境界線を守る
- 支援者自身の
安全を最優先



ライフステージを通じた支援

- キャリア教育の視点 **人間関係形成能力**の醸成
- 切れ目のない支援（長期的・縦断的）の必要性
 - 進学先との情報共有・支援には**糊代**を！
- 校内、地域連携の重要性
 - 地域での居場所（サードプレイス）
子ども食堂
- 不登校－虐待－発達の課題など**複合的**支援の必要性

和歌山での地域包括的支援の実践

地域における共通課題（性、いのちの大切さ）を
地域支援ネットワークを構築することで明確化
性教育では
県内の専門家（50名）＋行政・大学生等（50名）の協力
＝「地域包括支援モデル」



おわりに

大切にされた経験 = 人権尊重

＜地域支援・多職種ネットワークの中で
子どもたちの成長を支援する重要性の高まり＞

大切にされる ⇔ 大切にする
連鎖を生む人間関係を見守る・仕掛ける

人権意識 関係性 + 体験

「バスが来ましたよ♪」

意識 < 地下水のようなもの



大事にされた体験 沁みていく 溜まっていく

ハンドクリームのようなひと

いっしょにいて、ほっこりする人
自分を否定しない人 癒し 栄養 安心感

自分への癒し（ハンドクリームにも栄養）が必要
教員自身もSOSを発信する重要性

児童生徒・保護者・同僚との健全な関係性の構築
仲間を大切に、自らも大切にされる経験を

本研修の目的

「生徒指導提要改訂版」に基づき

- 児童・生徒の**理解の方法**や**指導・支援**
- チーム学校内における**よりよい関係性の構築を再検討**
- **自己資源・強みを再認識する**

参考文献

- ・生徒指導提要改訂版、文部科学省(2022)、https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf, 2023/5/1.
- ・八並光俊(2023)「生徒指導提要」デジタルテキスト版の公刊、月刊生徒指導3月号、学事出版
- ・厚生労働省：人口動態統計に基づく自殺死亡数及び自殺死亡率,
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jinkoudoutaijisatsusyasu.html,2020/10/15.
- ・文部科学省：平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査,
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/10/25/141208230.pdf,2020/10/15.
- ・文部科学省：児童生徒の自殺予防に向けた困難な事態、強い心理的負担を受けた場合などにおける対処の仕方を身につける等のための教育の推進について、https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1408025.htm,2020/10/15.
- ・阪中順子(2015)「学校現場から発信する子どもの自殺予防ガイドブック いのちの危機と向き合っ」金剛出版
- ・学生団体WAKA×YAMA：<http://www.wakaxyama.jp/>,2020/10/25.
- ・厚生労働省：「健やか親子21(第2次)」について 検討会報告書,
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000045655.pdf>, 2020/10/25.
- ・足立区生きる支援の取り組み、
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/063_7/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2019/02/21/1413739_001.pdf
- ・「学校における自殺予防教育プログラムGRIP」、<https://www.ritsumeai.ac.jp/research/radiant/life/story6.html/>
- ・北海道教育大学教職大学院「命の教育プロジェクト」—SOSの出し方教育を中心に—文部科学省、www.mext.go.jp

ご清聴ありがとうございました

本研究は、「中学生自死生徒の背景状況の分析と予防教育モデルの作成」
JSPS科研費 JP20K02998の助成を受けて行っています。